

鹿児島港本港区エリアにおける
新たな総合体育館のあり方について
(第7回総合体育館基本構想検討委員会資料)

令和4年1月11日

現状・課題

(現体育館の現状・課題)

- 現体育館は、築後60年以上経過し、老朽化が進んでいる。
- 全国・国際大会レベルの競技大会の開催には狭隘である。

⇒ 県大会等のスポーツ大会が各市町村立体育館で分散開催されており、効率的な大会運営ができていない。
全国・国際大会の誘致に支障が生じている。

需要予測調査結果

- 施設の利用割合は、メインアリーナでスポーツ利用が概ね76%~87%、
- ・スポーツ大会：概ね43%~51%
- ・県民利用：概ね30%~35%
- ・プロスポーツ利用：概ね2%~3%
- 多目的利用が概ね13%~24%

⇒ スポーツ利用が約8割となっており、その中でも県大会等のスポーツ大会が半分以上を占めている。

大まかな施設の規模・構成

施設の規模・構成の考え方

- 「する」スポーツに適した施設構成として、**メイン：バスケット4面、サブ：バスケット2面、柔剣道場：各2面、弓道場**を想定
- 「みる」スポーツにも対応するため、**関係者控室やメディア対応等に必要諸室を充実**
- 観客席(最大収容人数)については**、将来的な国際大会等の誘致を見据えるとともに、コンサート需要を踏まえ、**8千席程度**を想定

各施設構成ごとの概要

競技フロアや観客席、諸室等については、需要予測調査のほか、大会の運営状況や各種基準等を踏まえ、必要最小限の規模を記載。
これらは、整備予定地の決定後、施設のレイアウトを検討する中で具体的に検討

検討に当たっての視点

- 選手、観戦者などあらゆる利用者にとって快適な環境づくり
- 障害者や高齢者を含む全ての利用者が公平に使用できるよう配慮
- 最先端の情報ネットワーク環境や映像・音響装置など、施設の付加価値を高める設備の検討
- 他県施設との差別化や「みる」スポーツの視点から、競技スペース以外の部分(ホワイエ、飲食スペース等)や諸室・空間の環境整備等にも配慮
- 施設の財政的な持続可能性にも寄与する機能の担保

メインアリーナ

- 競技フロア：バスケットボールコート4面、フロアサイズ：(46.0m×81.0m)+a
- 観客席(最大収容人数)：8千席程度

サブアリーナ

- 競技フロア：バスケットボールコート2面、フロアサイズ：(34.0m×46.0m)+a
- 観客席：整備予定地の決定後、具体的に検討

柔剣道場

- 競技フロア：柔道場2面・剣道場2面(計4面)、フロアサイズ：(29.0m×29.0m)+a
- 観客席：整備予定地の決定後、具体的に検討

弓道場

- 近的12人立、遠的6人立
- 観客席：整備予定地の決定後、具体的に検討

諸室

- 器具庫、更衣室、会議室、VIP室
- 必要面積：5,355㎡±a

その他

- スポーツ科学の研究・提供機能(例：鹿屋体育大学のサテライト)
- スポーツ情報発信機能(例：スポーツ博物館、ライブラリー機能)
- スポーツ関係者の交流・ネットワーク拠点機能(大会期間外も含めた総合支援拠点)
- 健康増進(ヘルス)サービス機能(ウェルネス情報発信)
- 競技者以外でも気軽に来場できる仕組みづくり(ファミリーシートの設置など) など

施設の機能

基本的な考え方

現体育館の現状・課題や、需要予測調査結果を踏まえ、**新総合体育館は、「する」スポーツをベースとした、アスリートファーストの施設とする。**

スポーツ振興の拠点機能

- 屋内スポーツ競技の中核的な施設(聖地)として、県大会をはじめとする各種大会の円滑な運営や、全国・国際大会の誘致が可能な施設とする。
※スポーツ大会以外の県民利用は、主にサブアリーナを活用
- 県民が一流のスポーツイベントに触れる機会を創出するほか、他県施設との差別化、市町村との役割分担の明確化、サスティナビリティの視点から「みる」スポーツにも対応できる施設とする。
- スポーツ科学の研究・提供機能(鹿屋体育大学等との連携を検討)、スポーツ情報発信機能、スポーツ関係者の交流・ネットワーク拠点機能など、**本県のスポーツ振興を「ささえる」人材を育成する施設とする。**

- このことにより、
- ①**競技力の向上や競技人口の増加を図る。**
 - ②**県民、とりわけ将来を担う鹿児島の子供達に良質なスポーツ環境の提供を図る。**

多目的利用による交流拠点機能

- 上記のとおり、スポーツ振興の拠点機能を軸とするが、これに加え、**コンサート・イベント等の開催を通じ、スポーツをする人もしない人も、また、様々な年代の人々が交流できる施設とする。**

このことにより、**賑わいの創出や経済波及効果など地域活性化とともに、施設の収益性にも寄与する。**

鹿児島港本港区エリアにおける新たな総合体育館のあり方について

新たな総合体育館については、スポーツ振興の拠点機能と、コンサート・イベント等多目的利用による交流拠点機能を備えた施設として整備することとしており、国際的なスポーツ交流や幅広いイベントの開催などにより、本港区エリアの賑わい創出など、まちづくりに資するものとなるよう検討を進める必要がある。

1 スポーツ利用と多目的利用との両立

- 総合体育館は、「する」スポーツをベースとしたアスリートファーストの施設として整備を進めることとしているが、そのコンセプトのベースとなった需要予測調査においては、アマチュアのスポーツ利用が約7割、コンサート・イベントにプロスポーツを加えた、多目的利用が約3割となっている。

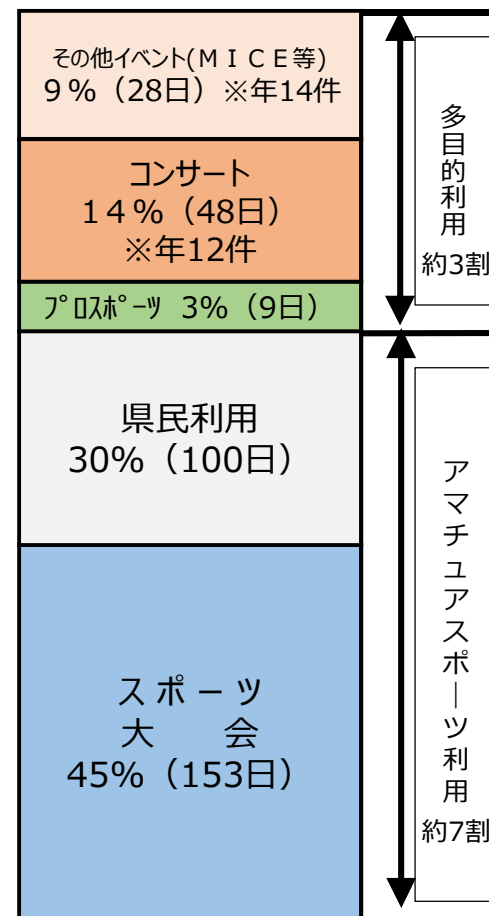
(需要予測調査結果概要)

鹿児島港本港区エリアの立地環境を踏まえ、スポーツ利用、多目的利用ともに昨年度実施した需要予測調査結果の上位予測の利用日数を想定
メインアリーナの利用日数・利用割合は右図のとおり

需要予測調査結果を踏まえた他施設との比較

- 需要予測調査結果（観客席8千人規模のアリーナを前提に実施）におけるイベントプロモーター等専門家の意見を踏まえると、コンサート及びその他イベント（MICE等）の需要は、施設の形態等を問わず、現在の利用回数がほぼ上限であり、仮にそれらの利用に特化した、総合体育館と同規模の施設（コンサートホールや展示場）を整備しても、利用回数はほとんど増加しないと考えられる。
- また、このような施設を整備しても、本県の立地条件を踏まえると、イベントの多い休日中心の利用となり、平日の利用がほとんど見込めないことから、年間を通じた集客と稼働が期待できないと考えられる。
- 一方、総合体育館については、休日の利用が多い多目的利用に加え、平日開催が多いスポーツ利用が見込まれることで年間を通じた集客と稼働が期待できる。

メインアリーナの利用割合



1 スポーツ利用と多目的利用との両立

- スポーツ利用のうち、学校教育の一環として開催される小中高生の大会及び県民利用は平日の開催が多いことから、休日の開催が多いコンサート・イベント等の多目的利用にも十分対応できると考えられる。

需要予測調査結果を踏まえたイベントの開催イメージ（メインアリーナ）

利用形態		利用日数	開催日の平日/休日の別	イベントの内容
スポーツ利用	県大会	137日	平日:70日 休日:67日	○平日に開催される大会（70日）（中体連、高体連主催など） ●小学校：1種目 2大会 4日 参加人数 約2,400人 ●中学校：4種目 4大会 13日 参加人数 約11,000人 ●高校：5種目 10大会 30日 参加人数 約23,000人 ●一般：2種目 5大会 6日 参加人数 約1,600人 ●その他※：2種目 5大会 17日 参加人数 約5,000人 ※小学校～一般までの複数カテゴリー等 ○休日に開催される大会（67日）（競技団体主催など） ●小学校：3種目 7大会 11日 参加人数 約17,000人 ●中学校：4種目 6大会 7日 参加人数 約8,000人 ●高校：5種目 10大会 16日 参加人数 約23,000人 ●一般：4種目 14大会 17日 参加人数 約6,000人 ●その他：5種目 10大会 16日 参加人数 約12,000人
	全国大会等	16日	平日:6日 休日:10日	○中央・県内競技団体のヒアリング結果から推計
	プロスポーツ	9日	平日:3日 休日:6日	○鹿児島レブナイズの実績及びVリーグの開催（見込み）
	県民利用	100日	平日:100日	○他県の類似施設の実績値から推計
	計	262日	平日:179日 休日:83日	
多目的利用	コンサート	48日	平日:24日 休日:24日	○他県の類似施設の実績値及びプロモーターへの調査結果から推計 ・年12件・48日（土日 2 days公演 準備・撤去：各1日） ・来場者 8千人／公演
	その他イベント	28日	平日:14日 休日:14日	○他県の類似施設の実績値及びプロモーターへの調査結果から推計 ・学会等での展示会場、各種大会等を想定 ・年14件・28日（うち1日準備）、来場者 2千人／公演
	計	76日	平日:38日 休日:38日	
計		338日	平日:217日 休日:121日	

新たな総合体育館（メインアリーナ）の年間の利用イメージ

月	4月							5月							6月							7月							8月							9月						
	平日	土日	平日	土日	平日	土日	平日	平日	土日	平日	土日	平日	土日	平日	平日	土日	平日	土日	平日	土日	平日	平日	土日	平日	土日	平日	土日	平日	平日	土日	平日	土日	平日	土日	平日	平日	土日	平日	土日	平日	土日	平日
行事	スポーツ大会（県大会）	スポーツ大会（県大会）	スポーツ大会（県大会）	スポーツ大会（県大会）	スポーツ大会（九州大会）	スポーツ大会（県大会）	スポーツ大会（県大会）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）

月	10月							11月							12月							1月							2月							3月						
	平日	土日	平日	土日	平日	土日	平日	平日	土日	平日	土日	平日	土日	平日	平日	土日	平日	土日	平日	土日	平日	平日	土日	平日	土日	平日	土日	平日	平日	土日	平日	土日	平日	土日	平日	平日	土日	平日	土日	平日	土日	平日
行事	プロスポーツ	多目的利用（コンサート・イベント）	スポーツ大会（県大会）	多目的利用（コンサート・イベント）	スポーツ大会（県大会）	スポーツ大会（県大会）	スポーツ大会（県大会）	スポーツ大会（県大会）	スポーツ大会（九州大会）	プロスポーツ	プロスポーツ	スポーツ大会（県大会）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	多目的利用（コンサート・イベント）	

作成の考え方

- 年間の大まかな利用イメージについて、需要予測調査結果の利用日数を基に作成（平日・土日の区分のみ。例えば平日に行事の記載がある場合においても、当該区分全てが行事で埋まっているわけではない）
- スポーツ利用については、R元年度の行事をベースに設定
- 多目的利用については、スポーツ利用がない土日に設定
- 県民利用は、大会・イベントがない日に利用（100日程度）するとともに、別途サブアリーナの活用も可能

利用日数について

鹿児島港本港区エリアの立地環境を踏まえ、スポーツ利用、多目的利用ともに昨年度実施した需要予測調査結果の上位予測の利用日数を想定

- スポーツ利用
（県大会：137日、全国大会等：16日、プロスポーツ：9日、県民利用：100日）
- 多目的利用
（コンサート：48日（年12件）、その他イベント（MICE）：28日（年14件））

2 新たな需要の創出

- 総合体育館については、検討委員会で共通認識が得られた施設のコンセプトにおいて、屋内スポーツ競技の中核的な施設として、全国・国際大会にも対応できる規模を想定
- このことにより、スポーツ利用については、これまで分散開催していた県大会が集約されるとともに、新たに全国・国際大会やプロスポーツの開催が見込まれる。
- 多目的利用については、これまで県内で開催できなかった大規模なアリーナコンサートや、これまでより大規模のコンベンション(学会等)の開催が見込まれる。
- これらに加え、桜島を望む眺望を活かした展望スペースの設置など、附帯施設を工夫することにより、競技者等はもとより広く県内外の観光客等のニーズを満たす整備が可能である。



全国大会での利用例：武蔵の森総合スポーツプラザ



プロスポーツでの利用イメージ：SAGAアリーナ

需要予測調査結果（抜粋）

コンサートの需要予測（要約）

九州におけるアリーナコンサートの需要については、経済の中心地で人口の多い福岡に集中しているが、九州新幹線で福岡等と結ばれている鹿児島に新たにアリーナコンサートが開催できる新しい施設が整備されることで、一定数の需要が創出される。

利用日数・人数

※メインアリーナ

利用形態		新体育館	現体育館	差
スポーツ利用	県大会	137日	107日	+30日
	全国大会等	16日	2日	+14日
	プロスポーツ	9日	6日	+3日
	県民利用	100日※	209日	▲109日
	計	262日	324日	▲62日
多目的利用	コンサート	48日(12件)	0日	+48日
	その他イベント(MICE等)	28日(14件)	4日	+24日
	計	76日	4日	+72日
計		338日	328日	+14日

※県民利用については、別途サブアリーナの活用も可能



コンサートでの利用例：武蔵の森総合スポーツプラザ

開催されるイベント

現在の県内におけるイベントの開催状況

- コンサート・みるスポーツ
 - ・アリーナコンサート：1～3公演（5千人規模）
※鹿児島アリーナ
- MICE（学会）
 - ・学会：6～7件（1～2千人規模が多い）
※県民交流センター，鹿児島大学等で分散開催



新総合体育館でのイベントの開催（想定）

- コンサート・みるスポーツ
 - ・アリーナコンサート：12件24公演（8千人規模）
 - ・プロスポーツ：9件（8千人規模）
 - MICE（学会）
 - ・学会：14件（2～5千人規模）
- ※サブアリーナの活用により更に大規模な学会等にも対応可能

3 景観への配慮

- 鹿児島市の景観条例に基づく景観計画において、城山展望台からの桜島の眺望を確保するため、建物の高さ制限が設けられていることから、これを遵守して検討を進める。
- 市街地からの桜島の眺望について、朝日通りやみなと大通り、マイアミ通り、パース通りなどからの眺望に留意して検討を進める。
- 県民の憩いの場となっているウォーターフロントパークについては、現状のままとし、今後も同敷地の良好な景観を確保する。
- 総合体育館の整備に当たっては、その施設のデザインなどが本港区エリアにふさわしいものであることや、新たに展望スペースなどを設置することにより、桜島や錦江湾の眺望を楽しめる新たな空間を創出する方向で検討を進める。
また、これにより、体育館利用者以外の集客を図り、鹿児島港本港区エリアの賑わいを創出し、同エリアの価値を高めることにつなげる。

※ 上記の考え方を踏まえた、新たな総合体育館の景観イメージについては、別途参考資料3で整理



城山展望台からの眺望



周辺の景観に調和したデザインとした新香川県総合体育館の例
(高さを低く抑えた曲線状で構成)